

## 平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年11月7日

上場会社名 クリナップ株式会社

上場取引所 東

コード番号 7955 URL <http://cleanup.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 井上 強一

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長

(氏名) 田中 仁

TEL 03-3894-4771

四半期報告書提出予定日 平成20年11月12日

配当支払開始予定日

平成20年12月1日

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	54,193	—	△606	—	△652	—	△1,020	—
20年3月期第2四半期	54,759	△6.4	△306	—	△352	—	△740	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第2四半期	△20.91	—
20年3月期第2四半期	△15.15	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第2四半期	80,817	54,338	67.2	1,116.27
20年3月期	79,897	55,892	70.0	1,143.48

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 54,338百万円 20年3月期 55,892百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	10.00	—	10.00	20.00
21年3月期	—	5.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 有

## 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	113,500	0.6	△600	—	△650	—	△1,450	—	△29.79

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

## 4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
新規 — 社(社名) ) 除外 — 社(社名) )
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有  
〔(注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。〕
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)  
① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
② ①以外の変更 無  
〔(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。〕
- (4) 発行済株式数(普通株式)  
① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第2四半期 48,942,374株 20年3月期 48,942,374株  
② 期末自己株式数 21年3月期第2四半期 263,721株 20年3月期 63,387株  
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第2四半期 48,778,820株 20年3月期第2四半期 48,879,327株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成20年5月8日に公表いたしました連結業績予想を本資料において修正し、開示しております。

2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等について、及び上記1に係る業績予想の具体的修正内容は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。また、個別業績予想等の修正内容につきましては本日別途開示する「業績予想の修正および配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、原材料価格の高止まりによる企業収益の悪化に加え、米国サブプライムローンに端を発した世界規模の金融不安拡大により、景気の先行き不透明感がさらに広がる展開となりました。

住宅設備機器業界におきましては、昨年の改正建築基準法の影響による新設住宅着工戸数の大幅減少傾向は脱したものの回復水準は低位に止まり、リフォーム需要も個人消費意欲の低下から伸び悩む結果となり、システムキッチン、システムバスルームおよび洗面化粧台とも、前年同期を下回る出荷数となりました。

このような状況の中、当社は平成20年5月に、高級品クラスのシステムキッチン「S. S.」に、お求めやすい価格設定の「S. S. ライトパッケージ」を追加し、さらに平成20年9月には、扉形状とカラーの拡充を行いました。また、中・高級品クラスのシステムキッチン「クリンレディ」につきましても、平成20年9月に同様の「クリンレディライトパッケージ」を追加いたしました。「クリンレディライトパッケージ」では、工期一週間でのスピーディなキッチンリフォームが可能となるよう、商品リードタイム短縮も図りました。

ショールームでは、平成20年9月に沖縄ショールームを移転リニューアルし、実際にキッチンの使用ができるパーティースペースを併設しました。

販売面では、一昨年発足の、会員登録制組織「水まわり工房」加盟店との共催によるショールームを活用したリフォームフェアの展開および、リフォームに注力する流通各社との連携を密にし、拡販に努めてまいりました。生産面では、引き続きVE活動を推進し原価低減に努めました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上を部門別にみますと、厨房部門では「S. S.」につきましても“サーボキャンペーン”、“ライトパッケージ”効果もあり、数量・金額とも前年同期比を僅かに下回る水準まで回復いたしました。しかしながら「クリンレディ」は依然前年実績を下回る状況が続き、今後の“ライトパッケージ”による効果を期待するところです。また、平成20年3月発売の「ラクエラ」を中心に普及品クラスは伸ばいたしました。この結果、厨房部門の売上高は前年同期比1.0%減の411億9千万円となりました。浴槽・洗面部門では中・高級品クラスのシステムバスルーム「アクリア」は数量・金額とも前年同期比伸ばしたものの「Lーバス」は同前年割れとなり、システムバスルーム全体では前年同期比、数量微増、金額微減でした。また、洗面化粧台は前年同期比数量は増加したものの金額は前年割れとなりました。この結果、浴槽・洗面部門の売上高は前年同期比1.5%減の107億2千1百万円となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比1.0%減の541億9千3百万円となりました。利益面では、商品力強化の一方、原価率上昇もあり経費圧縮に努めましたが営業損失6億6百万円、経常損失6億5千2百万円、四半期純損失10億2千万円と減収減益となりました。

なお、連結経営成績に関する定性的情報の前年同期増減率は参考として記載しています。

### 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産は808億1千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億2千万円増加いたしました。流動資産は511億6千7百万円となり、16億2千4百万円増加いたしました。これは現金預金が11億6千6百万円増加した一方、有価証券が6億9千8百万円減少、期末にかけての売上高が少ないこと等により、受取手形及び売掛金が10億1千3百万円減少、未成工事在庫の積み上がり等によるたな卸資産の増加が16億7千3百万円あったこと等によります。固定資産は296億4千9百万円となり、7億4百万円減少いたしました。これは主に減価償却費により、有形固定資産が4億6千6百万円、無形固定資産が1億5千4百万円それぞれ減少したこと等によります。

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は264億7千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ24億7千3百万円の増加となりました。流動負債は204億1千6百万円となり、25億5千万円増加いたしました。これは買掛金が6億2千3百万円、短期借入金15億円、前受金が5億3千5百万円増加したこと等によります。固定負債は60億6千2百万円となり、7千6百万円減少いたしました。

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は543億3千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ15億5千3百万円減少いたしました。これは四半期純損失10億2千万円と、配当金の支払い4億8千8百万円等によります。この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の70.0%から67.2%になりました。

(キャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、新規連結に伴う増加5千4百万円を含め、前連結会計年度末に比べ1億6千9百万円(1.0%)増加して164億7千万円となりました。

営業活動によって得られた資金は11億4千3百万円(前年同期比56.4%減)となりました。これは、税金等調整前四半期純損失が8億5千万円、減価償却費が20億7百万円で、売上債権の減少16億4千9百万円等があった一方、たな卸資産の増加19億7千7百万円があったこと等によるものです。

投資活動の結果使用した資金は11億7千2百万円（前年同期比 41.9%減）となりました。これは、生産設備の増設および改修に伴う支出が3億5千7百万円、情報システム構築に伴う支出が2億9千2百万円、投資有価証券の取得による支出が4億2千5百万円あったこと等によります。

財務活動の結果得られた資金は1億4千4百万円となりました。これは短期借入金による資金の純増が15億円、長期借入金の約定返済7億7千1百万円、配当金の支払い4億8千8百万円等によるものです。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、米国に端を発した金融危機による実体経済への影響等から景気は減速感を強め、個人消費も生活防衛優先意識から減退するものと予想されます。これらの状況から、住宅設備機器業界も、大幅に低迷した昨年水準から一昨年レベルまで回復するような需要の増加は予測しがたく、厳しい経営環境が続くものと思われま。

こうした状況下で当社は、「S. S. ライトパッケージ」、「クリンレディライトパッケージ」等、需要に則した商品対応と全国ショールーム活用による積極的な販売活動を推進してまいります。また、生産面での原価低減、経費の圧縮等コスト削減にも努めてまいります。

以上により、通期の連結業績予想につきましては第2四半期の業績等も鑑み、平成20年5月8日発表の業績予想を下方修正させていただきます。

なお、平成20年5月8日の決算短信で発表しました通期の連結業績予想との差異は以下のとおりです。

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成20年4月1日～平成21年3月31日）（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	122,000	1,700	1,600	800
今回発表予想 (B)	113,500	△600	△650	△1,450
増減額 (B-A)	△8,500	△2,300	△2,250	△2,250
増減率 (%)	△7.0	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	112,811	△1,301	△1,382	△3,078

### 4. その他

#### (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

#### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

##### 1. 簡便な会計処理

##### ① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

##### ② たな卸資産の評価方法

当第2四半期連結会計期間末のたな卸高の算出に関しては、一部実地たな卸を省略し、前連結会計年度末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積もり、簿価切下げを行う方法によっております。

##### ③ 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

##### ④ 経過勘定項目の算定方法

合理的な算定方法による概算額で計上する方法によっております。

##### ⑤ 繰延税金資産および繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

## 2. 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

## (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

### (会計処理の変更)

1. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

### 2. たな卸資産の評価基準及び評価方法の変更

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。なお、この変更による損益への影響はありません。

### 3. 「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

当第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用しております。なお、この変更による損益への影響はありません。

### (追加情報)

#### 有形固定資産の耐用年数の変更

当社および国内連結子会社の機械装置については、従来、主な耐用年数を5～13年としておりましたが、当第1四半期連結会計期間より5～14年に変更しました。

この変更は、減価償却資産の耐用年数等に関する省令の改正を契機として資産の利用状況等を見直した結果に伴う変更によるものであります。

これにより、当第2四半期連結累計期間の営業損失、経常損失および税金等調整前四半期純損失は、それぞれ41百万円増加しております。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,961	13,794
受取手形及び売掛金	24,923	25,936
有価証券	1,807	2,506
商品及び製品	3,436	1,749
仕掛品	139	138
原材料及び貯蔵品	1,138	1,153
その他	4,831	4,317
貸倒引当金	△71	△52
流動資産合計	51,167	49,543
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,677	9,836
その他（純額）	11,737	12,044
有形固定資産合計	21,414	21,881
無形固定資産	2,551	2,705
投資その他の資産		
投資有価証券	2,345	2,297
その他	3,528	3,787
貸倒引当金	△190	△317
投資その他の資産合計	5,683	5,767
固定資産合計	29,649	30,354
資産合計	80,817	79,897

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	7,180	6,557
短期借入金	2,128	1,151
未払金	8,040	8,010
未払法人税等	258	311
賞与引当金	1,394	1,206
その他	1,413	627
流動負債合計	20,416	17,865
固定負債		
長期借入金	2,744	2,992
退職給付引当金	923	818
役員退職慰労引当金	424	424
その他	1,970	1,904
固定負債合計	6,062	6,139
負債合計	26,479	24,005
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	13,267	13,267
資本剰余金	12,351	12,351
利益剰余金	28,534	30,017
自己株式	△158	△63
株主資本合計	53,994	55,572
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	339	319
為替換算調整勘定	4	—
評価・換算差額等合計	343	319
純資産合計	54,338	55,892
負債純資産合計	80,817	79,897

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
売上高	54,193
売上原価	36,209
売上総利益	17,983
販売費及び一般管理費	18,590
営業損失(△)	△606
営業外収益	
受取利息	43
受取配当金	32
仕入割引	192
その他	88
営業外収益合計	357
営業外費用	
支払利息	38
売上割引	331
その他	32
営業外費用合計	402
経常損失(△)	△652
特別利益	
固定資産売却益	0
特別利益合計	0
特別損失	
固定資産除売却損	39
投資有価証券評価損	89
減損損失	2
社葬費用	52
その他	14
特別損失合計	198
税金等調整前四半期純損失(△)	△850
法人税等	169
四半期純損失(△)	△1,020

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間  
(自 平成20年4月1日  
至 平成20年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△850
減価償却費	2,007
賞与引当金の増減額(△は減少)	188
売上債権の増減額(△は増加)	1,649
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,977
仕入債務の増減額(△は減少)	618
未払金の増減額(△は減少)	△89
その他	△261
小計	1,283
利息及び配当金の受取額	75
利息の支払額	△32
法人税等の支払額	△183
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,143
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△463
有形固定資産の売却による収入	6
無形固定資産の取得による支出	△292
投資有価証券の取得による支出	△425
その他	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,172
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,500
長期借入金の返済による支出	△771
配当金の支払額	△488
その他	△95
財務活動によるキャッシュ・フロー	144
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	115
現金及び現金同等物の期首残高	16,300
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	54
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,470

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

（4）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（5）セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

当社および連結子会社は、住宅及び店舗・事業所用設備機器関連事業とその他事業を行っております。

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年9月30日）

全セグメントの売上高の合計、営業損益の金額の合計額に占める「住宅及び店舗・事業所用設備機器関連事業」の割合がいずれも90%を超えるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

〔所在地別セグメント情報〕

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年9月30日）

全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合がいずれも90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年9月30日）

連結売上高に占める「海外売上高」の割合が10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

（6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表等

(要約) 中間連結損益計算書

科目	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)
	金額 (百万円)
I 売上高	54,759
II 売上原価	35,809
売上総利益	18,950
III 販売費及び一般管理費	19,256
営業損失 (△)	△306
IV 営業外収益	356
受取利息	41
仕入割引	198
その他	116
V 営業外費用	402
支払利息	24
売上割引	358
その他	19
経常損失 (△)	△352
VI 特別利益	24
VII 特別損失	228
税金等調整前中間純損失 (△)	△556
法人税等	183
中間純損失 (△)	△740

## 6. 生産、受注及び販売の状況

### (1) 生産実績

当第2四半期連結累計期間の生産実績を事業部門別に示すと次のとおりであります。

事業部門の名称	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
厨房部門 (百万円)	25,041
浴槽・洗面部門 (百万円)	9,253
その他 (百万円)	552
合計 (百万円)	34,848

- (注) 1. 金額は平均販売価格によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 商品仕入実績

当第2四半期連結累計期間の商品仕入実績を事業部門別に示すと次のとおりであります。

事業部門の名称	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
厨房部門 (百万円)	13,343
浴槽・洗面部門 (百万円)	1,257
その他 (百万円)	289
合計 (百万円)	14,890

- (注) 1. 金額は仕入価格によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 受注状況

当社および連結子会社の受注生産品の売上高は、僅少でありますので記載を省略しております。

### (4) 販売実績

当第2四半期連結累計期間の販売実績を事業部門別に示すと次のとおりであります。

事業部門の名称	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
厨房部門 (百万円)	41,190
浴槽・洗面部門 (百万円)	10,721
その他 (百万円)	2,281
合計 (百万円)	54,193

- (注) 1. 当第2四半期連結累計期間における主な相手先別の販売実績および当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	
	金額 (百万円)	割合 (%)
積水ハウス株式会社	5,461	10.1

2. 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。